

令和7年度杉並区NPO活動資金助成金確定額一覧

(単位:円)

No.	区分	交付団体	事業名	当初交付額	確定額
1	スタートアップ事業	特定非営利活動法人 Forum2050	すぎなみ発 みんなで考える「自分ごと」としての平和	200,000	200,000
2		楽学倶楽部	「てらこや」	186,000	186,000
3	ステップアップ事業	特定非営利活動法人 防災コミュニティネットワーク	レッツボウサイ！ どうする？災害時のトイレ問題！	160,000	134,162
4		特定非営利活動法人 みんなの進路委員会	次世代グローバルリーダー育成プログラム	300,000	300,000
		合計 4件		846,000	820,162

助成金対象事業報告書(令和7年度)

団体名	特定非営利活動法人Forum2050
事業名	すぎなみ発 みんなで考える「自分ごと」としての平和
事業(該当区分に○)	①. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	混迷を深めつつある世界において、一人でも多くの人、とりわけ、杉並区において、未来を担う子どもたちが、平和を「自分ごと」として捉えるようになるために、何が必要なのか、 について、多世代の多様な人々(学校の先生、子どもたち自身や親たち、国際協力に関わってきた人など)が協働して考えるワークショップを開催する。
事業目的	杉並区において、ひとりでも多くの区民と子どもたちが、平和を「自分ごと」として捉えるようになるため

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 杉並区在住・在勤・在学者 各回20人～30人規模×2回(のべ人数目標:40～60人)	48人(うち団体関係者・区外からの参加18人)
	②実施内容(参加型ワークショップ形式) ◆第一部(前半):テーマについて考える材料の提供 ・カンボジアおよびバングラデシュにおいて作成した動画の上映 ・団体代表のプレゼン(「今世界は」および「団体活動を通じた学び」) ◆第二部(後半):意見交換等 ・平和を自分ごととして考えるきっかけについての個人ワーク ・同グループワーク ・全体での意見交換	◆第一部(前半):テーマについて考える材料の提供 ・カンボジアおよびバングラデシュにおいて作成した動画の上映 ・団体代表のプレゼン(「今世界は」および「団体活動を通じた学び」) ・日本ウクライナ協会副理事長イーゴル氏による平和への想い ◆第二部(後半):意見交換等 ・平和を自分ごととして考えるきっかけについての個人ワーク ・同グループワーク ・全体での意見交換
	③実施回数・スケジュール・実施場所 ◆開催日:令和7年8月24日 ◆実施回数:2回 ◆スケジュール:午前の部(10-12時)午後の部(14時-16時) ◆実施場所:ワイム会議室(荻窪)	(同左) ◆開催日:令和7年8月24日 ◆実施回数:2回 ◆スケジュール:午前の部(10-12時)午後の部(14時-16時) ◆実施場所:ワイム会議室(荻窪)
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) ◆実施方法:参加型ワークショップ形式にて実施(オンサイトのみ) ◆設備:貸会議室の利用。スクリーン、プロジェクター、マイク利用 ◆従事者:会場への案内、司会進行等団体メンバーで対応	(同左) ◆実施方法:参加型ワークショップ形式にて実施(オンサイトのみ) ◆設備:貸会議室の利用。スクリーン、プロジェクター、マイク利用 ◆従事者:会場への案内、司会進行等団体メンバーで対応
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) ◆区のLINE、Eメール ◆区の施設へのチラシの配布 ◆協働プラザ、交流協会を通じたチラシの配布 ◆団体HPへの掲載 ◆区内各所の掲示板へのチラシの貼付 ◆区内におけるチラシのポスティング ◆団体代表のFB ◆団体代表/メンバーによる声かけ	(同左) ◆区のLINE、Eメール ◆区の施設(地域区民センター、図書館等)へのチラシの配布 ◆協働プラザ、交流協会を通じたチラシの配布 ◆団体HPへの掲載 ◆区内各所の掲示板へのチラシの貼付 ◆区内におけるチラシのポスティング ◆団体代表のFB ◆団体代表/メンバーによる声かけ

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ●改めて平和の意義を問い、平和を「自分ごと」として考える機会を区民が得る ●今回のイベントは、区民が、激動する世界における平和の今日的意義を考え、その中で、私たち一人ひとり、とりわけ次世代を担うこともたちが、平和を「自分ごと」としてとらえることの大切さについて、気づき、あるいは改めて考え直す機会を区民や地域に対してワークショップ（＝対話）を通じて提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画時の目標を概ね達成した。 ●ただし、広報を開始した時点で、主たる広報対象と考えていた学校等が夏期休暇に入っており、広報に苦労した点や、会場が雑居ビル内でわかりにくかった、など、今後に向けて改善が必要であると感じた。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
	<input type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
<ul style="list-style-type: none"> ●団体の特性として、年齢や立場の違いを超えて、平和について率直な意見を交換するという団体の文化をイベントにおいても生かす。 ●地域の特性に関しては、全国、そして世界に先駆け、水爆禁止の決議を行った杉並区の歴史を振り返りつつ、この新しい時代の文脈において一人でも多くの人々が平和を「自分ごと」として考えるための活動とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●団体の特性に関しては、事後のアンケートにおいても、若い人たちがの率直な意見や経験を聞くことができたことについてこれを評価する声が多かった。 ●地域の特性に関しては、平和に向けてのすざまじい先人たちの活動を改めて認識する機会となった。 	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
<ul style="list-style-type: none"> ●杉並区民(在住、在勤、在学者)が、平和を自分ごととして考える、とりわけ、若い世代がそのような行動をすべきか、という点に関して、世代や立場の違いを超えて参加者で考える機会を持つ。 ●参加者人数/イベントの規模としては、40人(20人×2回)を目安(目標)とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●内容面では、想定した成果を概ね達成した。 ●他方、参加者の人数に関しては、区民に限定した場合には、目安(目標)の40人に及ばず30人に留まった。(ただし、区外/関係者を含めると48人) 	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
<ul style="list-style-type: none"> ●今般のイベントへの参加者は、非常に意識の高い人が多く、すでに関連する領域で活動の実績を有するか、あるいは、新たな活動に向けての問題意識を有していた人が少なからずいたので、イベント後のやりとりを通じて、区内における類似の活動につながるようなお声かけをいただいた。(たとえば、学校関係者からは、学校での講演活動の可能性などについてお伺いして意見の交換をすることになった。また、イベントへの参加を通じて、団体活動への賛意と参加の意思表示をされた方もいた。日本ウクライナ協会(イベントに参加した副理事長が杉並在住)などとの関係も構築できた。) ●今般のイベント広報を通じて、区(協働推進係)、協働プラザおよび交流協会から多大な協力をいただき、区内の多くの方々に団体の活動を知っていただく貴重な機会となったのみならず今後に向けてもさまざまなアドバイス・支援が頂戴できる関係性が構築できた。(本当に感謝です！) 		
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>●内容面ではほぼ狙い通りの成果を上げ、また、事前の広報活動からイベント実施に至るプロセスでさまざまな方々から支援、アドバイスをいただいた。それらによって、区内における活動展開の可能性が格段に広がった。</p> <p>●他方、イベント規模、つまり、区内に限ったイベント参加者に人数に関しては、当初の目安(目標)であった40人に達しなかった。</p> <p>●広報の主たる対象として想定していた学校がすでに夏期休暇に入っていたことにより、イベント広報を通じた団体広報という点では今後の課題としての学びを得た。ただし、イベント参加者に学校関係者が含まれており、彼らとの関係性の構築および彼らを通じた今後の活動展開については手応えがあった。</p> <p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>
------	--

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>●イベントチラシにおける基金への言及、会場での看板の設置、募金箱の設置、上映した動画における基金への言及等の2回のイベントを通じて適切な普及啓発活動を行った。</p> <p>●さらに、代表の著書を無料配布し、その横に基金の募金箱を設置したこともあり、2800円の募金を得た。</p> <p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>
-------	---

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <p>●事後のアンケート(任意回答)を実施した。</p> <p>●当方からの声かけに答えて参加された方々には御礼のメッセージを送った。</p> <p>●アンケートに記名で回答し、かつ今後の連携に前向きなコメントを回答してくださった方々には個別に連絡をとった。</p>
	<p>参加者のうち、どのくらいの人から感想や意見を集めることができましたか。</p> <p>●アンケートへの回答者は30人。</p> <p>●当方から御礼のメッセージを送った方々、個別に連絡を取った方々からは、今後に向けて総じて前向きなコメントを頂戴した。</p>
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <p>●若いメンバーがイベントを取り仕切り、各人が堂々と率直に意見を述べ、かつ、参加者に対して真摯に接していたことについて、これらを高く評価する声が多くあった。</p> <p>●これまで、日本における平和教育は、被爆体験や空襲体験をベースとするものが多かったが、このイベントを通じて、世界の情勢を意識した上で、平和というものを、未来に向けて、かつ、より多面的に捉えることができた、という声や、ウクライナ人としてのイーゴルさんの話から、平和を守るためには努力が必要という点に共感する声が多く聞かれた。また、カンボジアとバングラデシュの動画を通じて、日本だけではなく、世界の子どもたちに視野が広がったことについてこれを評価する声もあった。</p>
意見の活用	<p>収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>●若いメンバーやイーゴルさん、あるいは、動画の子どもたちのリアルな声が、強い影響力をもった点を踏まえ、今後の活動においても、抽象論ではなく、一人ひとりの顔のみえる発信が、人の心を動かす、という点を改めて認識し、これを今後の活動に生かしていきたい。</p> <p>●まったく面識のない人たちが一堂に会する、というイベントの中で、アイスブレイキングの重要性を指摘する声もあった。これは、特に小規模なイベントにおいては意識し、イベントの冒頭で配慮していきたい。</p>

6 課題と今後の活動について

今後課題と活動	<p>●杉並区内の学校等において、あるいは、区内在住者の学校において、ニーズを掘り起こしつつ、講演/対話の活動を展開していきたい。</p> <p>●杉並区内において今後計画するイベントに関しては、引き続き基金の支援を得る可能性や、区や交流協会の後援の可能性について前広に御相談をさせていただきたい。</p> <p>●今回区内において広がったネットワークを活用し、区外の活動に際しても積極的にお声かけさせていただきたい。</p>
---------	---



8 収支決算

事業費	[D]	507,357	助成金	[E]	200,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	455,735	307,357		Bangladesh 動画127903円、カンボジア動画171355円、チラン2699円、消耗品5400(予算計上した交通費はメンバー負担)
	参加費・資料代等	0	0		
	その他の収入	0	0		
	計	[C] 455,735	[F] 307,357		自己資金等
	助成金	[B] 200,000	[E] 200,000		NPO活動資金助成金
	合計	[A] 655,735	[D] 507,357		

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金 (講師が団体内部の場合は対象外)			10,000		
小計	20,000		10,000	0	
②旅費・交通費				0	注)メンバー交通費はメンバー自己負担とした
小計		30,000	0	0	
③消耗品費				5,400	ボールペン、付箋メモ、マジック、コピー代等
小計			0	5,400	
④役務費					
小計			0	0	
⑤印刷製本費 (デザイン・原稿・動画作成含む)			50,000	127,903	Bangladesh 動画編集(撮影はメンバーが実施)
			50,000	171,355	カンボジア動画作成
				0	メイキング映像(予算不足のため断念)
			5,355	2,699	チラン代
小計	105,000	425,000	105,355	301,957	
⑥使用料・賃借料			84,645		ワイム賞会議室借料
小計	75,000	735	84,645	0	
⑦その他の経費					
小計			0	0	
合計			200,000	307,357	0 戻入額[B]-[E]
	[B] 200,000	[C] 455,735	[E] 200,000	[F] 307,357	
	[A] 655,735		[D] 507,357		

☆ 注意事項

- (1) 単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。
- (2) 団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(令和7年度)

団体名	楽学倶楽部
事業名	「てらこや」
事業(該当区分に○)	① スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	本事業は子どもたちが安心して勉強したり、遊んだりする環境づくりを主眼として「子どもの居場所づくり」と併せて「学習支援」をおこなう。
事業目的	「てらこや」の開催を目的とする。 就学後の子どもたちの受け皿が必要である。学童クラブの施設は充実し改善してきたが人的不足もあり受入数は満足とは言えない。また、学童クラブになじめない子ども、家に閉じこもりがちなお子子ども、月会費が負担できない家庭もある。 楽学倶楽部「てらこや」は手を差し伸べ子どもたちの居場所と学習支援の両立をはかる。違う学校の子どもの交流によって社会性も身につく。特に小学低学年は、学校や社会に慣れていないため、保護者の負担も大変である。不登校や家の中に閉じこもってゲームに夢中になっている子どもがふえている。一日2時間でも「てらこや」を利用してもらうことで、保護者の助けになり地域に役立つことを目的とする。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 対象: 小学校1年生～5年生を対象に実施 人数: 年間延べ人数: 180人 (10名×2回/月×9か月)	①実施対象者は計画通り小学1年から5年生とした。 年間延べ180人の見込みに対して、保護者の口こみ等で登録者数が17人と増えたため想定より多い189人(R6年は160人)になった。1年生から5年生が参加した。
	②実施内容 月2回、地域小学校の就学時程にあわせて15時半から17時半まで子どもたちに「算数」を中心に希望に応じて教える。8月からは能力の多様性を見いだせればと考え、「英会話に親しむ」、余暇には「考えて何かを作ろう」を取り入れる。英会話は子どものうちから親しむ(聞く、話す)ことが大切と考えて実践する。 中心の算数は文章問題で読む力をつけることを身に付ける。	②実施内容 月2回(水曜日)小学校の就学時程にあわせて15時半から17時半まで実施した。子どもたちには「算数のプリント」を準備して、各人の進捗に合わせて学習させた。宿題をやりたい者はそれを優先するなど、子どもたちの自主性を尊重するようにした。8月より月に一度40分程度英語の授業を取り入れた。1年生から5年生と幅があったため、先生には工夫をいただいたが、子どもの関心度という点で個人差があったように思う。 勉強の合間に気分転換をはかることと、子どもたちが「てらこや」に来たいという気持ちを維持するため、四季の行事を体験してもらう時間を取り入れた。(行事写真は別添)
	③実施回数・スケジュール・実施場所 場所: 中道寺の会議室 日程: 令和7年6月～令和8年2月 月2回×9ヶ月	③実施回数・スケジュール・実施場所 場所: 中道寺の会議室 日程: 令和7年6月～令和8年2月 回数: 月2回×9ヶ月
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 講師: 2名+1名(8月以降英会話ボランティア) 計3名 講師補助或いはボランティアその都度 設備: 机、椅子は会議室のもの プリンター、pcは中澤個人のもの	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 講師: 3名(内1名は英語ボランティア) ボランティア: 3名 設備: 机、椅子は会議室のもの プリンター、PCは中澤個人のもの
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) [チラシ配布・団体WEBサイト・SNS・広報すぎなみ・すぎなみ地域コム] チラシを作成し、小学校や町会回覧など、保護者間のネットワーク [その他] 掲示板: 「でんごんくん利用」	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) チラシを作成し、小学校に協力をお願いした所、学校では保護者への連絡がネット活用で一斉配信してくれた。掲示板「でんごんくん」への掲示のみでポスター作成は数枚で済んだ。一番の効果は保護者間の口コミであった。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<p>1. 昨今、学童クラブは整備され学校内併設で安全で便利になっていると同時に、児童館併設のクラブも完備してきた。しかし児童数に比べ学童クラブの定員は少なく、ほぼ空き待ち状態が実情で家に閉じこもりゲームに夢中になっている子どもが増えている。</p> <p>2. 保護者から「てらこや」をやってほしいとの要望があり、令和5年度に再開しNPO活動支金助成事業として令和6年度で実施した。</p> <p>4. 荻窪は若い居住者が増加しており、共稼ぎの家庭も多く、子どもたちの居場所を求めている状況である。子どもの増加は社会にとって望ましく地域が手を差し伸べることが大切である。</p>	<p>①「子どもの居場所」としての「てらこや」は当初の目標を上回る希望者があり12名を超える忙しい日もあり、やりがいを感じた。宿題や自由な時間を持つように気を配り、子どもたちに居心地の良い場を提供することにより目的を十分に果たすことができた。また「てらこや」で用意したプリントにも挑戦、休憩時間には皆で飲み物補給と談笑、保護者からの反応も「このように柔軟に対応してくれる場所が欲しかった」という言葉をいただいた。②算数の文章問題への取り組みは読解力向上にもつながり効果的と考えるが、今年度初めて実施した英語は1年生から5年生を対象することに課題があったと思う。</p> <p>③潜在的ニーズは掘り起こせば多いようだが、現状では、施設の確保並びに講師・スタッフ確保とそれに伴う事業費拡大で増やすことができない。今年度は中道寺のご協力で場所を確保できたが、継続課題であると感じた。</p>
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
	<input type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<p>(団体や地域の特性をどのように生かした事業ですか) 団体は荻窪地域密着型であり、事業は荻窪地域の子どもに特化しており、開催場所は地域の中心、中道寺にお願いした。講師の先生たちも地域町会で貢献しておられる方々で学識豊かな経験者である。</p>	<p>荻窪地域にある中道寺のご協力を得て場所をお借りすることができ、文字通りの「てらこや」となり保護者にとっても安心して任せられる場で開催することができた。講師の先生は学識を持つ豊かな人であると同時に、地域に貢献している方であり、子どもたちにとっても視野を広げ、新たな経験を積む場となったと考える。今後の活動の継続・発展に繋がることを期待する。</p>
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
<p>(区民や地域にもたらす具体的な効果はどのようなものがあると考えていますか)</p> <p>①「てらこや」の事業への関心が深まり、ボランティアの方が増えることを期待している。</p> <p>② 子どもたちが異なった環境下で交流を経験し地域の大切さを知り、大人になった時にも地域活動を理解してくれることを期待している。</p> <p>③ 保護者にも、この事業を経験することによって地域活動に理解を深めてもらうと同時に社会参加への意識向上を期待する。</p> <p>(助成を受けることで、団体活動や事業発展にどのような効果(継続性・発展性)がありますか)</p> <p>助成を受けることにより、このような事業を持続出来る人材の発掘につなげ、地域力を高める効果を期待できる。</p>	<p>(区民や地域にもたらす具体的な効果について)</p> <p>①ボランティアの人脈や地域センター協議会委員への声掛けなどを実施した、学校支援本部の見学もあった。</p> <p>②子どもたちは荻窪地域の桃二小、西田小のほか、杉七小からも幅広く集まり、違う学校同士の子どもの交流が来た。学習以外でも「季節の行事」を取り入れた「カルタ合戦」などの遊びを通じて、お互いを知ることができた。また、地域のイベント(例:センター祭り、神社のお祭り、節分豆まき等)への積極参加を勧め、実現している。</p> <p>③上記活動は保護者も含めた交流に発展しているが地域貢献への意識はあるものの子育てで手一杯の状況はやむを得ないと思われる。</p> <p>(助成を受けることで、団体活動や事業発展にどのような効果(継続性・発展性)があったか)</p> <p>助成を受けることにより、子どもたちの居場所を作るという事業を継続し、持続出来る人材が出てきた。このため継続的な助成事業は有難く大切だと感じた。</p>	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
<p>「てらこや」に対して、地域の方の関心と評価が確実に高まっていると感じる。実際、参加児童数も増え、見学者やボランティア希望者が増えている。</p>		
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>子どもたちの「居場所づくり」を目的にした「てらこや」は、今年度も継続して、事故やトラブルなく実施でき、子どもたちが毎回楽しみにして喜んで通ってくることで保護者から感謝された。講師やボランティアが子どもに対して適切に対応したことで学力の向上がみえたこと、違う学校、違う学年の子どもたちが協力して行動することを学びお互いに交流できた。将来、子どもたちが地域活動やボランティアの大切さを学ぶ場になれば幸いである。</p> <p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>
------	--

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>この事業は「杉並区NPO支援基金の助成金」で運営されていることをのぼり旗を作り会場に設置、チラシ配布や支援募金箱を設置して広報活動した。募金箱に大金ではないが小銭が入っていたことで認知されたと感じている。</p> <p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>
-------	---

5 事業に関する意見収集の成果について

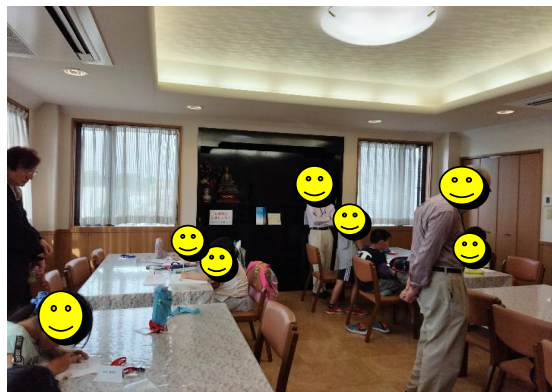
意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <p>「てらこや」開始・終了時に、送り迎えの保護者から当日の子どもの状況や希望する学習内容の聞き取りをするよう努めている。「てらこや」での様子を必要に応じてメールでお伝えするようにしている。保護者からのメールでは学校での出来事や子どもさんの悩みも聞き取れる。このような中で事業への意見収集を行いながら、少しは頼りにされているのかなと感じることがある。</p>
	<p>参加者のうち、どのくらいの人から感想や意見を集めることができましたか。</p> <p>毎回ではないが、参加者(子どもたち、保護者)全員の声を収集することができている。子どもからはお菓子に関する要望がでるが世界中で飢餓に苦しんでいる子どもたちがいることも学校で学んでいるSDGsを思い起こすようにしている。</p>
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <p>・保護者からの声 子どもたちが「てらこや」に来ることを楽しみにしている。 開催場所や時間について満足 講師やスタッフについて満足 学校での学習態度への変化がみられた。 兄弟への心遣いや態度に変化がみられる。</p>
意見収集した活用	<p style="background-color: #e0f2f1;">収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>保護者の情報と講師側の観察から、子どもによって、得意・不得意、学習態度の違い(真面目にコツコツ・集中力が続かない・なかなか学習に入れない・他にちょっかいを出す など)は千差万別であるため、その日その日で子どもたちは違うことを十分理解し、一人一人の個性に合わせた対応を臨機応変にしていることを心掛けた。 今後も講師・ボランティアで共有し進めていき、保護者の期待にこたえられるようにしたい。</p>

6 課題と今後の活動について

今後課題と活動	<p>・「てらこや」もコロナ禍を乗り越え継続してきたので、経験と効果的な運営が定着してきたと感じるので、さらに高められるよう講師の方と一緒に取り組んでいきたい。</p> <p>・2時間連続(休憩時間あるが)で同じ科目を勉強させると集中力が切れるので、別の教科を織り交ぜるなどの方法を考えていきたい。</p> <p>・荻窪地域区民センターが10月に再開されるので、中道寺という場所を活かしながら、移転も視野に入れて運営方法を検討していきたい。</p>
---------	--

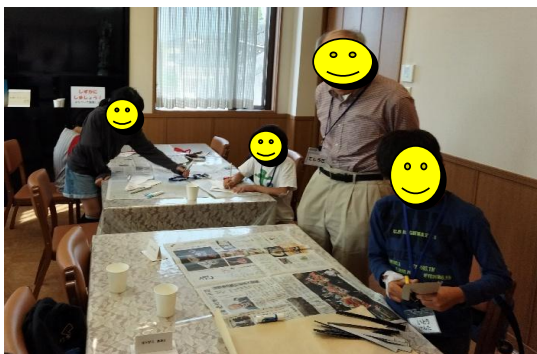
★具体的な活動風景の写真などを貼付

中道寺教室前にて



勉強中

カブト制作



カルタで英語に親しむ



8 収支決算

事業費	[D]	228,262	助成金	[E]	186,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	5,579		4,462	団体負担金
	参加費・資料代等	36,000		37,800	参加費 200円×189人 6月～8月 63人、9月～11月 64人、 12月～2月 62人
	その他の収入				
	計	[C] 41,579	[F]	42,262	自己資金等
	助成金	[B] 186,000	[E]	186,000	NPO活動資金助成金
	合計	[A] 227,579	[D]	228,262	

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金 (講師が団体内部の場合は対象外)			72,000		講師代 2000円×2名×2回/月×9
			10,500		英会話ボランティア弁償(交通費含む) 1500円×1名×1回/月×7
	小計	82,500		82,500	0
②旅費・交通費			8,280		講師バス代 460円(往復)×1名×2回/月×9
	小計	8,280		8,280	0
	③消耗品費			1,030	
			5,137		プリンターインク代
			8,954		文具、その他事業に必要な物品
小計		21,561	579	21,561	1,675
④役務費			4,950		参加費請求郵送切手代110円×45枚
			6,897		行事保険料 33円×対象延べ人数209名
			812		同上振込手数料
	小計	12,659		12,659	0
⑤印刷製本費 (デザイン・原稿・動画作成含む)			0	0	チラシ印刷不要となった
	小計	0		0	0
	⑥使用料・賃借料			54,000	0
小計		54,000		54,000	0
⑦その他の経費				7,000	
				35,099	菓子代
	小計	7,000	41,000	7,000	40,587
合計			186,000	42,262	0 戻入額[B]-[E]
	[B] 186,000	[C] 41,579	[E] 186,000	[F] 42,262	
	[A] 227,579		[D] 228,262		

☆ 注意事項

- (1) 単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。
- (2) 団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(令和7年度)

団体名	特定非営利活動法人防災コミュニティネットワーク
事業名	レッツボウサイ！ どうする？ 災害時のトイレ問題！
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 <input type="radio"/> 2. <input checked="" type="radio"/> ステップアップ事業
事業概要	本事業では、講習会をとおして災害時のトイレ問題についての理解を深め、年齢や性別、障害の有無などの違いがある中、一般化された非常用トイレで対応が可能かどうか実際に体験してもらい、水、食料の備蓄と同様にトイレの備蓄についても一緒に考え自助力の向上につなげる。
事業目的	本事業では、大規模災害による、下水管、水道管の損壊が被災後の生活において健康面、衛生面で多大な悪影響を及ぼすことを理解してもらい、参加者に合った非常用トイレの備蓄を促すことで、その悪影響を軽減させ災害関連死をなくすことを目的としている。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 杉並区在住、在勤、在学のどなたでも。 各回30人(延べ60人)	第1回 10月18日(土)参加者29名(男性3・女性26名) 第2回 1月17日(土)参加者40名(男性14・女性26名) 延べ:男性17名・女性52名 計69名
	②実施内容 講習会 タイトル「レッツボウサイ！ どうする？ 災害時のトイレ問題！」 8月2日(土)と2月7日(土)の2回、講習会をとおして災害時のトイレ問題を考える。 講習会の後に、実際に非常用トイレの実物を見てもらい、自分や家族などどのようなタイプの非常用トイレがマッチするのか体験してもらい、非常用トイレ備蓄の啓発につなげる。	実施日程、会場を③の通り変更した。 講習会の内容は予定通り実施した。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 第1回 8月2日(土)永福和泉地域区民センター 第2回 2月7日(土)西荻地域区民センター	日程、実施場所を以下に変更した。 第1回 10月18日(土)永福和泉地域区民センター 第2回 1月17日(土)産業商工会館
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 事業責任者1名、防災士1名、防災介助士1名 ボランティアコーディネーター1名、 ボランティア6名	10月18日: 事業責任者1名、防災士1名、防災介助士1名 ボランティアコーディネーター1名、 ボランティア5名 1月17日: 事業責任者1名、防災士1名、防災介助士1名 ボランティアコーディネーター1名、 ボランティア5名
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) チラシ配布・団体WEBサイト・SNS・広報すぎなみ	チラシ配布・団体WEBサイト・団体Instagram・広報すぎなみ1月1日号・杉並区X・Yahooくらし・杉並区LINE公式アカウント

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<p>災害への備えとして水、食料などの備蓄は当たり前として認知されてきた。一方、避難所などのトイレの問題は取り沙汰されるものの具体的にどのような備蓄をすれば良いのかわからないという声を聞くことが多い。特に近年では、下水管の老朽化に伴う水のトラブルも増えており大規模な災害に関わらず、日頃から水や電気が使えない時のトイレ問題への備えは必要であり、その解決策を知りたいというニーズがある。</p>	<p>計画時の想定通り、トイレ備蓄への関心は非常に高かった。日頃からの備えに対して「自分事」として捉えていただくことができ十分な成果を挙げることができたと考える。</p> <p>また、講座内では「災害時の集合住宅でのトイレ排水について」や「高齢者の排泄ケアを伴う場合の備蓄」など、具体的な質問も見受けられた。今後は備蓄啓発に留まらず、参加者の住環境や年齢層に応じた個別のアドバイスが必要であるという新たな問題提起に繋げることができた。</p>
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
	<input type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<p>当団体は令和6年度におこなった能登半島地震の復興支援事業で、水が使えない、トイレで苦勞したという被災者の生の声を聞くことができた。その教訓と解決策を区民、地域に届けることができると考えている。</p>	<p>能登半島地震復興支援事業では、「断水により水が使えない」、「トイレ環境の悪化」という課題があった。この経験を活かし、参加者への簡易トイレの備蓄促進だけではなく、トイレ環境を整えるための備品(ランタン型ライト、ペーパー、ポップアップテント)など具体的な備蓄の重要性を示した。これにより参加者の備蓄意識の向上に繋げることができたと考える。</p>
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
<ul style="list-style-type: none"> ・水、電気などインフラが停止した際のトイレ問題の解決につながる。 ・一般化された製品が自分にマッチするか確認することができ、実用的な非常用トイレの備蓄につなげることができる。 ・地域住民同士が災害時のトイレ問題を共通の課題として認識することで、横のつながりから、非常用トイレの備蓄が当たり前のこととして浸透すると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを使用し、災害時に起こるトイレ問題を新たなストック情報として蓄積することができた。 ・多種多様なトイレを試すことで、自分や家族に合った非常用トイレを知ることができたと共に、凝固剤の使い方や使用後の状態なども実践的に経験することができ、トイレ防災力の向上につながった。 ・非常用トイレを試す際にワイワイガヤガヤと様々な話が飛び交う中、参加者が抱えている課題・困りごとなどを吐露する場面もあり、参加者同士で意見を出し合う場面が見られ災害時のトイレ問題に関する問題意識がより自分ごと、地域ごととして浸透した。 	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
<p>町会で防災担当を任されている参加者や、杉並区内で活動している地域団体の方の参加もあり、本講座を町会単位で開催してほしいとのお話や、他団体の持つ知見などお互いに共有し合うなどの広がりが見られた。</p>		
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>講座内容については予定通り実施できた。 事業実施日については会場の確保が難しく予定通り実施することができなかった。一般抽選が2か月前申込、確定となる。区報原稿のメ切には間に合わず第1回目実施時は区報を利用することができなかった。その点を協働推進係担当者様に相談したところ公式LINEでの配信を行っていただくことができた。第2回目では区X、Yahooくらしも追加。区のSNSで広く周知できたことが参加者確保にも繋がったと考えている。</p> <p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p>
	<p><input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>チラシ、申込フォーム内での周知、当日開催時ののぼり旗掲示、募金箱設置を実施。広く啓発活動ができた</p> <p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p>
	<p><input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者アンケートを実施した。 ・非常用トイレを実際に体験していただく際に、団体スタッフ、ボランティアが積極的に参加者とお話する場を設け、感想や意見を伺うような体制を整えた。
	<p>参加者のうち、どのくらいの人から感想や意見を集めることができましたか。</p> <p>第1回 10月18日(土)参加者29名(男性3・女性26名)のうち アンケート回収枚数:26枚(男性3・女性23)</p> <p>第2回 1月17日(土)参加者40名(男性14・女性26名)のうち アンケート回収枚数:35枚(男性13・女性21・未回答1名)</p>
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <p>・災害時のトイレは大問題と認識している。自宅では1週間くらいは何とかなるとしても外出時や避難所などで大勢の方が利用する場合は不安。行政の力にも頼りたいがそれでは不十分。各自での準備が必要。(70代女性)・非常事態に対する意識を高めるのにとっても役立った(70代女性)・前から災害時のトイレについて気になっていたので今回のような特化した講座はありがたかった(50代男性)・日頃なんとなく気になっていた災害時のトイレ問題をわかりやすく具体的に説明していただきとても参考になりました。様々なタイプの非常用トイレ展示も色々試すことができとてもよかったです。凝固剤、買わなければと思いました。(60代女性)・住民のトイレに対するリテラシーを上げるため企業や学校でもこの講義を行っていただきたい(40代男性)・教育が第一ということには同感。それは子どもたち、学生には比較的やりやすいと思いますが意識のあまりない住民(発災時には共に行動しなければならない人たち)にどう関心を持ってもらうかだと思います。町会などが機能していない中で非常に難しいと思います。(70代女性)</p>
意見の活用	<p>収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>参加者よりトイレの凝固剤の平均使用期限について質問があったため、第2回目の講座内ではあらかじめ資料内容に情報を盛り込んだ。また、「使用回数分のトイレ備蓄」というワードでは伝わりにくい点があったことから、1回分＝凝固剤の数での説明を行い、参加者がイメージしやすい講座展開に活かすことができた。色水を使って実際に凝固剤を使用する体験型ワークショップもイメージができたこと好評をいただいた。</p>

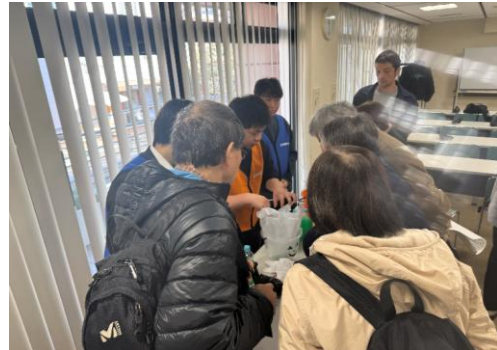
6 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<p>本事業を、区内全域で実施して欲しいという要望もあったので、当団体としても実現可能か前向きに検討したいと考えている。</p>
----------	--

7 活動状況について

団体名: 特定非営利活動法人防災コミュニティネットワーク

★具体的な活動風景の写真を貼付



8 収支決算

事業費	[D]	147,067	助成金	[E]	160,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
団体負担金		3,725		12,905	
参加費・資料代等					
その他の収入					
計	[C]	3,725	[F]	12,905	自己資金等
助成金	[B]	160,000	[E]	134,162	NPO活動資金助成金
合計	[A]	163,725	[D]	147,067	

費目	予算額		決算額		決算額内訳				
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費					
①謝礼金 (講師が団体内部の場合は対象外)			5,000		ボランティアコーディネーター(1名) @2500円×2日間				
			2,400		10/18ボランティア実費弁償(2名) @1200円×2名				
			12,000		1/17ボランティア実費弁償(10名) @1200円×10名				
	小計	19,400	19,400	0					
②旅費・交通費			2,000		物品運搬駐車場代当日1日間×1000円=2000円				
			1,140		10/18交通費①下目黒-目黒-永福 @1140円 片道:バス240円・電車330円				
			1,340		10/18交通費②清瀬-永福@1340円 片道:電車670円				
	小計	9,060	6,560	0					
③消耗品費			8,370		非常用トイレ×3(3210円+2580円+2580円)				
			8,517		非常用トイレ×4、ポンチョ×1 (1495円+1498円+526円+2999円+1999円)				
			5,382		非常用トイレ×1				
			5,779		非常用トイレ×2(2799円+2980円)				
			7,960		非常用トイレ×2(3980円+3980円)				
			9,980		非常用トイレ×1				
			9,480		非常用トイレ×1				
	小計	92,305	75,357	0					
④役務費			3,440	5,160	レターバックライト430円×20枚				
	小計	3,440	3,440	5,160					
⑤印刷製本費 (デザイン・原稿・動画作成含む)			4,865	5	10/18チラシ500部				
			1,790		パネル1枚				
			2,980		1/17チラシ500部				
			3,130		パネル1枚				
	小計	22,095	5	18,005	5				
⑥使用料・賃借料			6,400		10/18永福和泉地域区民センター				
	小計	13,700	11,400	0	1/17 産業商工会館				
⑦その他の経費				3,870	行事保険 10/18 @129円×30名				
	小計	0	3,720	0	7,740 行事保険 1/17 @129円×30名				
合計	[B]	160,000	[C]	3,725	[E]	134,162	[F]	12,905	25,838 戻入額[B]-[E]
	[A]	163,725	[D]	147,067					

☆ 注意事項

- (1) 単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。
- (2) 団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(令和7年度)

団体名	特定非営利活動法人みんなの進路委員会
事業名	次世代グローバルリーダー育成プログラム
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 (2.)ステップアップ事業
事業概要	主に杉並区在住・在学の中高一世代が、「気候変動」「異文化理解」「障がい」「子どもの権利」の4コース8チームに別れ、各テーマの知識とワークショップデザインを学ぶ。最終的には、中高生たちが小学生向けに各テーマを楽しく学べるワークショップを企画・実践する3日間のプログラム
事業目的	地域にまつわる諸課題について学び、実際にアクションを起こすことができる杉並区の未来の担い手となる中高生を育成する

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 主に杉並区在住・在学の中高一世代40名(各コース10名)	主に杉並区在住・在学の中高一世代31名
	②実施内容 3日間のサマープログラム 1日目 オリエンテーション・テーマ別研修 2日目 ワorkshopデザイン研修・プログラムデザイン・リハーサル 3日目 児童館等で中高生が小学生に対してワークショップ・振り返り	3日間のサマープログラム 1日目 オリエンテーション・テーマ別研修 2日目 ワorkshopデザイン研修・プログラムデザイン・リハーサル 3日目 児童館等で中高生が小学生に対してワークショップ・振り返り
	③実施回数・スケジュール・実施場所 日時:8月21日(木)~23日(土)10:00-17:00※最終日は18:00まで 場所:1日目/高円寺氷川神社、2日目/杉並区環境活動推進センター、3日目午前/児童館(高井戸・井草・四宮森・松ノ木・堀ノ内東)、3日目午後/座・高円寺	日時:8月21日(木)~23日(土)10:00-17:00※最終日は18:00まで 場所:1日目/高円寺氷川神社、2日目/杉並区環境活動推進センター、3日目午前/児童館(高井戸・井草・四宮森・松ノ木・堀ノ内東)、3日目午後/座・高円寺
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 主催:特定非営利活動法人みんなの進路委員会 共催:特定非営利活動法人green bird高円寺チーム、高井戸・井草・四宮森・松ノ木・堀ノ内東児童館 協力:高円寺氷川神社、座・高円寺、杉並区環境活動推進センター 後援:文化庁国語課、杉並区教育委員会、東京都教育委員会	主催:特定非営利活動法人みんなの進路委員会 共催:特定非営利活動法人green bird高円寺チーム 協力:高円寺氷川神社、座・高円寺、杉並区環境活動推進センター、高井戸・井草・四宮森・松ノ木・堀ノ内東児童館 後援:杉並区教育委員会
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) チラシ配布・団体WEBサイト・SNS・広報すぎなみ・すぎなみ地域コム・Activo・PRTimes掲載	チラシ配布・団体WEBサイト・SNS・広報すぎなみ・Activo・PRTimes・東京都ボランティア市民活動センターサイト・高円寺経済新聞掲載

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
	<p>当団体理事長の谷村が、昨年度杉並区子どもの権利擁護に関する審議会委員として活動する中で、中高生世代から「子どもたちが主体的になって地域社会の中で実践する機会」を求める声が多数あった。SDGsへの関心の高まりや探究学習の必修化などに伴い、中高生世代が社会の諸課題について学ぶ機会は増えているが、実際の地域において実践活動を行う機会は少ない現状がある。そこで、考えて終わりではなく、実社会にアクションを起こす機会を提供したい。</p>		<p>参加者の大半が、「学校ではできない地域の現場での実践経験ができること」が動機となっており、当初予定していたニーズが想定通りであったことが示されたと考えている。また、コース選択のきっかけが、学校の探究学習等でテーマとして取り組んだ経験があるものを、もっと深めたいという趣旨の生徒も非常に多かった。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった</p>		
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
	<p>1. 当団体の持つ地域ネットワーク 2. 中高生向けワークショップ実践経験 3. 杉並区にまつわるテーマ・行政連携 「気候変動」は杉並区環境部、「異文化理解」は、文化庁国語課、「障がい」は、文化交流課や座・高円寺と、「子どもの権利」は、子ども家庭部と連携</p>		<p>左記載の1, 2に加え、3に関しては、杉並区環境部と文化交流課が1日目のテーマ別研修で区の取り組みを紹介。子ども家庭部からは資料や子どもの権利すごろくの提供をいただいた。さらに、環境部は8月開催の気候変動ユース会議において、子ども家庭部は上半期に開催していた子どもワークショップにおいて、当プログラムを紹介いただき告知協力いただいた。各会場の無償提供や集客など、地域の特性が生きたと考えている。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
<p>・区民や地域にもたらす具体的な効果 中高生世代が、地域社会に関心を持ち、地域の担い手として成長する。とりわけ、直近の杉並区にまつわるテーマを選択しているため、プログラム修了後も各テーマにまつわる活動を中高生が継続することが期待される ・団体活動や事業発展の継続性・発展性 公立中高の全生徒に対してチラシを配布することで、これまで情報を届けられなかった層にアプローチできる ・過去の事業からのステップアップ 1.テーマの拡大 2.参加者の拡大</p>		<p>・プログラムを通して、各テーマに対して関心が高まった結果、地域での環境活動やアイヌ文化をより深く知るアクションなどへ踏み出す生徒が生まれた ・宮前中学校、都立西高校、杉並高校など公立中高の参加者が増加した ・テーマを拡大したことで、多様な興味関心を持つ中高生を受け入れることができた ・参加者が前回の17名から31名へと増加した</p>	
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>			
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
<p>杉並区の各課との連携が強化された点は当団体の今後の展開にとっても重要な転換点だったと感じている。また、参加者の拡大に伴い、区内の学校との関係性強化にも繋がっている。さらに、児童館や協力いただいた団体も増加しており、当団体の区内での活動の発展に直結した</p>			
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった</p>			

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>日程等は全て当初予定通り実施できた。参加人数も前回より大幅に増加させることができたが、40名枠を用意していたので、そこが埋められなかったのは今後の課題である</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>3日間のプログラム期間中は、開催会場でバナーと募金箱を設置することで広報した。また、区内全中高で配布したチラシにも基金の支援を受けていることを記載して広報した</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <p>3日間のプログラムでは、毎回終了直前30分でその日の振り返りを実施し、参加者から感想や意見を集めた。また、3日目は2時間かけて振り返りを行った。さらに、参加者アンケートを実施した</p>
	<p>参加者のうち、どのくらいの人数から感想や意見を集めることができましたか。</p> <p>プログラム期間中の振り返りは全員が参加した。アンケートに関しては、回収率は100%だった。</p>
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <p>「小学生に対してワークショップを実践することができ、とても自信になった」「今回をきっかけで、地域で活動する楽しさを知ったので、もっといろいろな活動に取り組んでいきたい」「ワークショップデザインは、学校の探究学習でも生かせると感じたので、もっと学びたい」「子どもの権利についてよくわかったので、区の子どもワークショップなどにも参加していきたい」「大学生になったら、スタッフとして後輩たちを支えたい」「アイヌ文化についてもっと学ぶ機会を探したい。講師のお店にも行ってみたい」「ろうの方々のリアルを知れた。今年はデフリンピックや国際ろう芸術祭があると知ったので、参加してみたい」(一部抜粋)</p>
意見収集の活用	<p>収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>スタッフ間での振り返りミーティングの議論事項の材料とさせていただいた。また、アンケートで挙げた良い点は維持し、改善点は改良しながら次回開催に繋げていく</p>

6 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<p>長期休暇中の単発のプログラムも、地域の担い手育成に繋がる重要な機会だが、そこで関心を持った生徒たちがその後も継続的に活動に取り組む場の必要性を痛感した。そこで、「すぎなみ探究部」という関心のあるテーマについて中高生が地域で取り組む放課後コミュニティの設立を目指す</p>
----------	--

7 活動状況について

団体名: 特定非営利活動法人みんなの進路委員会

★具体的な活動風景の写真などを貼付



8 収支決算

事業費	[D]	343,282	助成金	[E]	300,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	7,030	1,282	
	参加費・資料代等	60,000	42,000	2,000円×21名 ※10名は特待生等で免除
	その他の収入			
	計	[C] 67,030	[F] 43,282	自己資金等
	助成金	[B] 300,000	[E] 300,000	NPO活動資金助成金
	合計	[A] 367,030	[D] 343,282	

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金 (講師が団体内部の場合は対象外)			56,000		講師謝礼(区規定を踏まえ4,000円×7時間×2名)
			30,000		講師謝礼(10,000円×3名)
			120,000	30,000	アルバイトスタッフ謝礼(1,000円/時間)
	小計	206,000	48,000	206,000	30,000
②旅費・交通費					
	小計	0	0	0	0
③消耗品費			27,000	7,872	ワークショップ備品
				4,180	発送用ダンボール
	小計	27,000	17,600	27,000	12,052
④役務費			20,000	200	チラシ発送(レターバックライト40通・プラス5通)
			11,000	110	チラシ発送(ゆうパック1,010円×11通)
	小計	31,000	400	31,000	310
⑤印刷製本費 (デザイン・原稿・動画作成含む)			24,000	160	チラシ印刷(10,000部/プリントパック)
	小計	24,000	270	24,000	160
⑥使用料・賃借料					
	小計	0	0	0	0
⑦その他の経費			12,000	760	Activo利用料(6,380円/月×2ヶ月)
	小計	12,000	760	12,000	760
合計			300,000	43,282	0 戻入額[B]-[E]
	[B]	300,000	[C] 67,030	[E] 300,000	[F] 43,282
	[A]	367,030	[D] 343,282		

☆ 注意事項

- (1) 単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。
- (2) 団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。